

# 小平西のきずな

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. 51

2024年9月24日（火）発行

発行責任者:草野篤子(白梅学園大学)

TEL: 042-346-5639

住所:〒187-8570 東京都小平市小川町1-830

## 新学科設立の意味について

### 朝岡幸彦

#### (白梅学園大学特任教授)

2024年4月に子ども学部家族・地域支援学科の特任教授として着任した朝岡です。

3月まで東京農工大学農学部にて29年間勤めておりました。専門は、社会教育学と環境教育学です。出身地は新潟県見附市という小さな町ですが、父が生まれ育ったところは東京の下町(墨田区石原)でお墓も鶯谷のお寺にあります。なぜ下町の庶民であった父が新潟の農村にたどり着いたのか。それには「1945年(昭和20年)3月10日」という日付が重要な意味を持っています。

すでにお気づきの方もおられるかと思いますが、東京大空襲で焼け出され、大火傷を負いながらも命からがら親戚を頼って疎開した先が母の実家だったのです。父がどのように空襲を生き延びたのかを聞き取ってまとめたものもあります(「社会教育の戦後50年から何を学ぶのか」『月刊社会教育』1995年11月増刊号)。

さて、いろいろなお縁があつて白梅学園大学に来させていただいた私ですが、私に期待されていたのが「デジタル・グリーン子ども学科」(子ども環境学科)(仮

称)の準備です。本年2月に学科改組の補助金を文科省に申請して6月に採択された新学科ですが、キーワードはDX(デジタルトランスフォーメーション)とGX(グリーントランスフォーメーション)という二つの言葉です。要は、Wi-Fi やらAI(人工知能)やらがどんどん家庭や地域、保育所・学校に入ってきている中で、気候変動などの深刻な環境問題にどのように取り組むのかが求められているわけです。全国の国公立大学が補助金をもらってDX・GXに対応した新学部・新学科を設置し始めていますが、白梅学園大学の特徴は保育・児童教育と社会福祉に実績のある子ども学部を設置しようとしていることです。新学科には「保育・幼児教育」「社会福祉」の各コースに加えて、「環境教育」コースを構想しています。東京農工大学農学部とも連携協定を結び、主にGXを意識しながら子どもや子育て世代をどう支援していくのか、まだどこも取り組んでいない課題です。学科は2026年度以降に設置予定です。みなさんのご協力をお願いします。

#### 小平西地区地域ネットワークって何？

2012年3月17日に白梅学園大学関係者が様々なNPO、ボランティア団体、民生・児童委員、町内会、大学・学校などに関係する方々に呼びかけて「お互いの顔が見える人間関係が豊かな地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース(団体の担当者でも可)の加入を基本とする開かれたネットワークです。市民の皆さん一緒に活動に参加なさいませんか？



# 小川西町公民館まつりに参加を！

## 田中亮彦

### (小川西町公民館館長)

今年の4月から、小川西町公民館館長を拝命いたしました、田中亮彦(たなかあきひこ)と申します。前任の伊東は、小川公民館長へ異動となりましたが、今後とも、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

私は3月まで、市民協働・男女参画推進課で地域センターの担当をしておりましたが、勝手の違う公民館勤務でまだまだ右往左往しており、みなさまにご迷惑をおかけするかもしれませんが、何卒ご協力賜りたく存じます。西ネットのみなさまの日頃からの熱心な活動により、地域連携の強化や地域コミュニティの醸成に寄与していただき、大変感謝申し上げます。

ところで、来る10月12日、13日に、第44回小川西町公民館まつりを開催いたします。音楽会では、津軽三味線ライブを行います。また、ボッチャ大会や、公民館を利用しているサークルの発表では、合唱、ハーモニカやウクレレの演奏や、外国人による日本語スピーチ、着物の着付けなど、サークル活動の成果をみなさまに披

露いたします。ほかにも、やきそば、おにぎり等の模擬店や野菜、花鉢の販売、児童生徒による作品展示等もありますので、みなさま是非お越しください。

そして、公民館は、地域支援、防災・生活安全、健康づくり、子育て支援、ジュニア、シニア、文化・教養の7区分にもとづく講座を開催し、市民のみなさまの学びたいという気持ちをアシストしてまいります。

また、公民館を利用されるサークルの方に、貸し部屋の提供等により、集まって一緒に活動する機会の支援を行ってまいります。さらに、小川駅西口再開発ビルへの移転を2年後に控え、準備を進めてまいります。

社会教育、そして、生涯学習の場として、みなさまが「つどう・まなぶ・そしてつながる公民館」を目標に、公民館を盛り上げていきたい、と考えております。ともに、地域コミュニティの醸成を目指し、地域連携をより強化していきますよう、今後とも、何卒ご協力よろしくお願ひ申し上げます。

# 子どもの“困った”は、試行錯誤の機会？！

## 白梅幼稚園 年中組担当

### 西井宏之

白梅幼稚園では、子どもたちが自分で目的を見つけ、取り組む自由遊びを大事にしています。「あそび」は、単純に空いている時間に何かをして過ごすのではなく、「あそび」を通して、様々なことを経験していきます。例えば、遠足で経験したことをきっかけに、藁と枝で堅穴式住居を作ったり、焼き芋ごっこから本当に火を起こすにはどうしたらいいのかを考え始めるようになります。もちろん、その過程にはうまくいかないこともあります、「やってみよう」という気持ちが伴うことで、失敗から多くのことを学んでいきます。

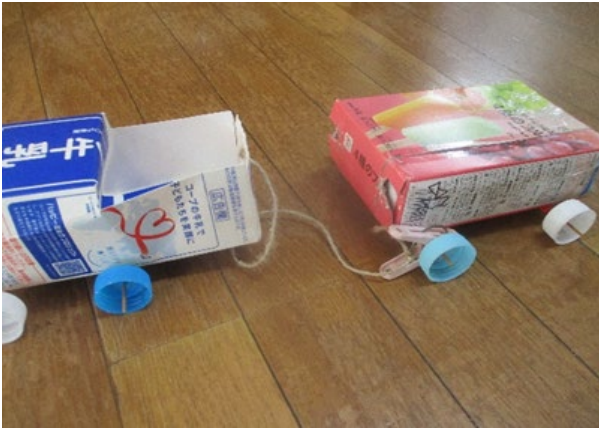
年中組でのことです。5月末、車作りがクラス内で広

がっていきました。坂道を走らせたり、「ぶ〜ん」と言いながら動かして楽しんでいきます。そのうち、その車がシブカーになったり、ぶつかって壊れた車を修理に連れていくための牽引車も登場しました。

ある日、Mちゃんが自分の作った車を、牽引車に引っ張ってもらいたいののですが、何やら困っています。牽引車は車に紐がつき、紐の先についている洗濯バサミを、車に挟んで引っ張ります。しかし、Mちゃんの車は洗濯バサミで挟む箇所がないようでした。

すぐに助言をするか少し迷いましたが、困っていることを周りの子に知らせてみました。すると、Hちゃんは「ここに付けたら？」とタイヤの軸につけてみます。しばらく

考えた M ちゃんは、「ここだと車が動かなくなっちゃう」と言います。なかなかいいアイデアが思いつきませんでし



たが、突然「あ、わかった」と M ちゃんは何か閃いたようで工作コーナーに向かいます。

少し経ってから見に行くと、M ちゃんの車の前面に、洗濯バサミがちょうど挟めるような突起が、紙で取り付けられていました。車の中心なら牽引しても真っすぐ進むだろうということ、車の真ん中には洗濯バサミが挟める箇所はないが、何かを取り付ければいいのかも说不定、と

いうことに気づいたのでしよう。

その姿を見て、“よけいなこと”を言わなくてよかった、と思いました。子どもが困っていると、つい私たち大人は、良かれと思い、“～してみたら?”、“～のほうがいいんじ



やない?”と助言をしてしまいます。でも、その言葉が、子どもたちの考える時間と機会を奪っている可能性もあります。“5秒”待ってみる、もしくは一緒に困ってみる、と子どもは自分で考え始めるかもしれません。子どもの“困った”は、試行錯誤する機会なのかもしれないと感じた M ちゃんの姿でした。

## 高齢者クラブ「富寿美会」ご存じですか

### 富寿美会会長 石川隆

小平市内の25の地域で高齢者クラブ(老人会)が組織されています。その中で富寿美会は、たかの台と小川町1丁目・津田町・上水新町の一部地域をエリアに活動しています。現在の会員数は82人ですが、自分の体調とも相談をしながら様々な活動をして楽しんでいます。まず、年3回開催の誕生会は最も良く集まるメインの行事です。15年間会長を務め1月に急逝された渡辺穂積前会長の時代から特別に力を入れていた取り組みでしたし、会員が一番楽しみにしているものです。小川公民館ホールに毎回50～60人は必ず参加します。年間3回・毎回参加する人も多くなります。そしてお互いの健康を確認しあい、お喋りを楽しんでいます。また、年3回のバス旅行も楽しみにしている行事のひとつです。グランドゴルフ・カラオケ・輪投げなども自主的なクラブとして責任者を決め運営しています。

富寿美会は、現在平均年齢が84、4歳ですが、それは高齢クラブですから当然ですし、健康で頑張る高齢者が増えることは喜ばしいことでもあります。そういう中、会の重点の一つとして取り組んでいるのが「見守り活動」

です。地域ごとに8つの班編成の中で、班長さんを中心に独自の「見守りシート」を活用し、会員の安否確認(情報収集)をお願いしています。安否確認などと大上段に構えて行うのではなく、駅やスーパーで出会った時や、近所の医院などで会った時などあらゆる機会を活用して行うことにしています。

また、会からの配付物(行事の案内や予定等)はポストへの投函ではなく、極力手渡しをしようということになっています。手渡しは、お互いの顔も見ると、そこでは一言、二言は必ず言葉をかけることになります。それを大事にして取り組んでいます。

一方、高齢クラブとしての悩みも多々あります。この3～4年間のコロナ禍では様々な行事などが出来なかったことに加え、面接し見守り自体が出来なくなっていたこともあり、亡くなられた方、健康問題を抱え入院をされる方、施設に入所される方なども多く、組織人数が減少するという問題が大きな悩みになっています。これは高齢者組織だけの問題ではありませんが、高齢者の間でも「仲間づくり」の取り組みが本格的に求められていると

思っています。

今、高齢者のおかれている状況にもかなり厳しいものがあります。国立社会保障・人口問題研究所の発表でも、超高齢化社会では高齢者人口だけではなく一人暮らし(単身世帯)も増えていきます。推計では2050年には単身世帯が2230万世帯(全世帯の44, 3%)を占めると言われています。

その中で働く高齢者も急激に増加しています。65歳以上の就業人数は2002年の152万人から2023年は543万人と3, 75倍に急増しています。とりわけ70歳以上の高齢者では、就業人数の増加と同時に非正規雇用が目立って増えているのが特徴です。また、「なぜ働くのか、その理由は」の問いには、「働くのは体に良い、老化を防ぐ、自分の活力になるから」等ですが、最も多

い答えは、「収入が欲しいから」が41, 6%です。(総務省・労働力調査)「高齢者世帯で収入を求めて働き続けなければならない最大の理由は、年金額が不十分だから」という指摘もあります。収入の大部分を年金に依存している世帯では恒常的に家計が赤字になっていることは、政府統計からも明らかです。

高齢者世帯の中では、とくに孤立を防ぎ、安心して暮らせるような環境を整えることが大事です。地域社会の中で「見守り力」を高めることは、単身高齢者にとどまらず子育て世代や障害者の支援にもつながります。地域に住む人を孤立させないために気軽に声をかけあう「隣人」を増やす取り組みとして、高齢クラブでも「仲間づくり」を、長期的な視点に立ちながらも焦らず急いで進めていくことが大事になってきていると考えています。

# あおぞらひろばを終えて

## 白梅学園大学子ども学科 3年 中澤彩香

8月10日にオープンキャンパス内の企画としてあおぞらひろばを開催いたしました。今回は、「ミッションに挑め！勇気あふれるあおぞら団！」と題して、悪い海賊に奪われた地図を取り戻し宝を見つけ出すというストーリー仕立ての内容で進めました。

当日は大きく分けてボディーペイントと親子競技の2つの活動を行いました。

ボディーペイントでは、ロール紙を貼り合わせた5メートル四角の大きさの紙と赤、青、黄の3色の水彩絵の具を用意し、手足で絵の具の感触や色が混ざり合う様子を楽しみ、手足や服が絵の具まみれになるまで遊びました。初めは絵の具に触ったり足についたりすることをためらっている様子も見受けられましたが、時間が経つにつれ髪についても気にすることのないくらい楽しんでいる様子でした。また、白梅子育て広場の活動を実際に見て知ってもらうために、高校生にも体験として参加していただきました。緊張から子どもとどう関わればいいのか戸惑っている方もいましたが、学生のサポートもあり子どもと絵の具で遊び、積極的に話しかけて広場の活動の体験、子どもと関わることの楽しさを感じていただけたのではないかと思います。

親子競技では文化創造ホールという、子どもが鬼ご

っこできる程度の広さの部屋を海賊の秘密基地とし、マットで作った山を渡り、ハードルを乗り越え、デカパン、けんけんぱ、貝殻合わせの5種類の障害物競争を行いました。特に貝殻合わせでは新聞紙プールの中に埋もれているため、なかなか見つけられなかったり、ダミーに苦戦したりする様子がありました。親子、子ども同士、学生と子どもといった組み合わせで互いに協力し、子ども達や見学の高校生と保護者の応援もあって、最後の種目である貝殻合わせで集めた貝殻を悪い海賊に渡し、宝の地図を取り戻すことに成功しました。その後、見つけた宝のバッチを身につけて、中庭でボディーペイントの作品とともに記念撮影を行いました。

当日は参加者さんも学生も高校生も笑顔がたくさん見られ、「楽しかった」といっていただくこともできました。短い期間での作業で集中して用意する必要がありましたが、その中でも案を出し合いながら楽しく準備をすることができたのではないかと思います。様々な変更もありながら、無事あおぞらひろばを終えられたことで得られた達成感は大いものでした。

今後も白梅子育て広場の活動へのご理解とご協力をお願いいたします。



# 7月あそぼうかい

## 渡邊美旺(子ども学科1年)



2024年7月13日に、あそぼうかいを開催しました。テーマを「涼しく夏を過ごそう!!」に設定し、年々危険な暑さが増す今、安全に楽しく遊べる空間を作りたいと考え、この目標のもと準備しました。当日には多くの方にお越しいただき一緒に涼しく楽しく過ごすことが出来ました。あそぼうかいでは5つのコーナーが展開されています。今回の各コーナーの様子をご紹介します。

参加者の方に一番最初に関わる「受付コーナー」。



水色のカップに白いかき氷というデザインの名札をお渡しし、好きな色でシロップの部分塗るコーナーを設けました。また窓には青色のすずらんテープで再現した海に魚の装飾をして、部屋に入る日差しを遮りつつ視覚的にも涼しさを感じられる工夫をしました。



「制作コーナー」では、配布するうちわに好きな絵を描いたり色を塗るコーナーにしました。涼しく感じる物を自分で作れる楽しさを知ってもらえるよう企画しました。「ホットスペース」では、ゆったりできるミニコーナーが沢山ありました。一番人気だったのは折り紙のコマ回しでした。他にも折り紙や塗り絵など座りながら遊べる企画にしました。「あそびコーナー」では、それこそ涼しく室内で思い切り遊べる空間を作りました。中でもモグラではなくチンアナゴ叩きは大人気コーナーとなりました。他にも輪投げやボウリング、また部屋中央にはすずらんテープで作った金魚すくいができ、そのまま夏にまつわる景品を貰えるコーナーがありました。

あそぼうかい締めくくり。「おわりのつどい」では、「浦島太郎」の紙人形劇を行いました。3組の発表グループがそれぞれ違った工夫をし、3回見ても飽きないようしていました。ゆったりと楽しんでもらえることが出来ました。帰る際に「楽しかった」と言ってハイタッチしてくれた子がいました。その姿を見た私達学生にとっても楽しいあそぼうかいとなりました。また次回も、参加者の方々に楽しかったと思ってもらえるあそぼうかいにしたいです。

# つながるまつり

## 3年 山川琴音(やまかわことね)

2024年6月29日(土)にブリヂストンイノベーションギャラリーにて「つながるまつり～色とりどり！みんなであそぼう和っはっは！～」を開催しました。昨年から2回目の開催となった本イベントは、白梅子育て広場だけでなく、株式会社ブリヂストンや小川ホーム、一般社団法人フェアリーエンターテインメント、リズム工房、第2みどり作業所、武蔵野美術大学など地域の様々な企業や団体に関わり企画をしています。当日はあそび、せいさく、ステージ、物販の4つのコーナーを用意しました。



あそびのコーナーでは、宝探しと的当てのブースを用意しました。宝探しでは新聞紙プールの中から宝を探すという形式で行いましたが、「新聞紙プール」を楽しむお子様も多く、普段車いすを使用しているお子様もプールの中に入って遊ぶことができたため、障害の有無に限らず同じものを楽しむという経験ができました。的当てには段ボールで作った動物の的とは別に、株式会社ブリヂストンにタイヤをお借りし、タイヤも的にすることで普段できない遊びを用意することができました。

せいさくのコーナーでは、おめんと着物ペンダントのせいさくを行いました。紙皿をベースに顔や絵を描くお

めんと作りでは、好きなキャラクターや動物をモチーフにオリジナルのお面を作る姿が見られました。着物ペンダントでは、好きな色紙や千代紙を選んでちぎり、人型の台紙に貼ってもらうことでちぎり絵の着物を作りました。できた作品を嬉しそうに身につけるお子様の姿が印象的でした。



ステージでは、フェアリーエンターテインメントによるダンスの公演を行いました。公演の中には参加者の方も一緒に法被を着て一緒に踊るという場面もあり、会場が一体感に包まれました。

物販のコーナーでは、第2みどり作業所のVELDEのパンやクッキーとリズム工房の雑貨の販売を行いました。

また、会場を盛り上げるためにスタッフ全員がそれぞれ手作りの法被を着用しました。この法被は小川ホームで使わなくなったガウンを寄付していただいたものを加工したものです。このように、白梅子育て広場以外の企業や団体が協力し合って企画を行うことで、白梅子育て広場だけでは成しえない経験をすることができました。今後も地域とのつながりを大切に活動を続けていきます。

## 認知症あんしん生活実践塾2024

### 家族・地域支援セミナー2024

午頭潤子(白梅学園大学教員)

2024（令和6）年9月17日（火）に白梅学園大学・白梅学園短期大学で一般社団法人日本自立支援介護・パワーリハ学会との共催でセミナーを開催いたしました。認知症の人を介護しているご家族等が、毎月1回認知症の人への認知力の回復を目指す方法を学び、また宿題を通して実践し、認知症の症状の軽減や、重度化の予防を目指します。

今回の学会・セミナーには、北は東北、南は九州、そして中国からと、100名を超える方々が参集されました。また、安心して参加いただけるよう、本会場／中国語同時通訳会場／要介護者・車いす等対応会場（介護付き）を設けました。

第1部は、日本自立支援介護・パワーリハ学会竹内孝仁顧問による「認知症の新しい介護理論」について講演です。

第2部のシンポジウムでは、座長に国際医療福祉大学大学院 准教授/日本自立支援介護・パワーリハ学会 代表理事 小平めぐみ先生の進行のもと、塾生（家族介護者等）が経験した基本ケア実践の効果や、日々の実践に関する具体的な工夫内容が報告されました。

第3部では、2部のパネリストと会場を交えてのディスカッションが行われ活発な意見交換が行われました。講師からは水分に関する知識の必要性和、覚醒水準を上げる取り組みについて報告がありました。参加者は、自身がかわる方の認知症の症状を少しでも改善したいという思いや、認知症に関する正しい知識及び認知症の人に関する正しい理解が求められていることを実感しました。今年度も小平市認知症あんしん生活実践塾が、9月よりスタートいたします。

2023年6月に「地域共生社会の実現を推進する認知症基本法」が制定され翌年1月1日より施行されました。「認知症で困っている」、「認知症の困った症状を少しでも改善したい」との思いをお持ちの方がおられましたら、是非本講座にご参加ください。

本講座が、地域に広がり、より多くの認知症の人の症状の改善や、その家族介護者の介護負担の軽減に資することを心より願っております。（別紙チラシをご参照ください）

# 白梅学園大学学園祭あいます

## 10月19日(土)・20日(日)

### —小平西地区地域ネットワークも参加します—

白梅学園大学・短期大学学園祭（白梅祭）が10月19日（土）20日（日）に開催されます。学生たちが日ごろのサークル活動の成果を発表すると同時にゼミナールや授業などの参加もあります。また同窓会や有志の参加もあり、子どもたちが楽しめるほっとスペースなども準備されています。模擬店も様々準備されていますので家族での参加を楽しむことが可能です。

なお今年度はNHKの朝の連続ドラマ『虎に翼』で、寅子の大学時代の恩師が白梅学園大学・短期大学の創始者のひとりがモデルになっているということで話題になっ

ています。そんなルートも訪ねてみてください。

白梅学園大学・短期大学が12年前から取り組んできた「小平西地区地域ネットワーク」（西ネット）も、B21教室を使って展示と気軽に歓談できるコミュニティカフェを開催します。展示ではこの1年間発行してきたニュース「小平西のきずな」を拡大して展示します。地域では様々な取り組みが行われ、人々のつながりが築かれていることが分かります。その中で白梅の学生たちがたくさん関わっていることもあり、若い力を感じています。

### 金田利子

☆わが国の朝鮮人への虐殺史 ああ忘れまじ「9. 1」を

☆米兵の性暴力を許すまじ 人権無視の米軍支配

☆8月は「戦争NO」を行動で、9月以降はさらに思考で

☆人と人結ぶ郵便生きる糧 大きな値上げこれを引き裂く



**皆さん、コミュニティ・サロン(下の①～③)と「中学生勉強会」(④)に足を運んでみませんか?**

**お待ちしております!**

**① ほっとスペースさつき**

毎週火曜と木曜 10:00~16:00 (移転先検討中)

**② ほっとスペース第二きよか**

毎月第1月曜 13:30~15:30 参加費 200円 (移転先:小平市小川町1-755-2-106) 問合せ:瀧口優 TEL:080-3450-6878

\*2023年7月10日(月)「ほっとスペース第二きよか」がスタートしました。

\*第一もしくは第二月曜に実施しています。(今後の予定は、10月7日、11月11日、12月2日、1月6日)13時30分~15時30分です。

**③ カフェなかじま**

毎月第1水曜日(祝日の場合は第2水曜日)13:30~15:30 中島地域センター 参加費 100円

**④「分かった会」小中無料学習教室**

毎週木曜日 18:00~20:00 (小川公民館) 問合せ:奈良 勝行 (講師募集中!) TEL:090-4435-4306

9月からは火曜日も中学校3年生用として開室しています。

**イベントの予定**

- ・10月06日(日)11時~ だれでも食堂ゆらり
- ・10月12日(土)10時~ 小川西町公民館まつり  
~13日14時30分
- ・10月19日(土)10時~ 白梅学園大学短期大学白梅祭  
~20日15時00分
- ・10月26日(土)10時~ 小平13小学校青少対まつり
- ・10月27日(日)10時~ おがわんフェスティバル(小川ホーム)
- ・11月09日(土)10時~ 小平青年会議所・小平市社協・白梅防災プロジェクト合同企画、災害・防災イベント

**西ネットの今後の予定**

**大学世話人会:** 10月22日(火)18時~  
**地域世話人会:** 11月05日(火)18時~  
**大学世話人会:** 11月26日(火)18時~  
**地域懇談会:** 12月17日(火)18時~

西ネットの世話人

ブロック	地域世話人	大学世話人
1	西 克彦・丸山安三	瀧口 優・杉本豊和 福丸由佳
2	足立隆子・芳井正彦・ 今野志保子	午頭潤子・土川洋子 吉村季織
3	大内智恵子・久保田進・ 杉浦博道・吉田徹	金田利子・草野篤子 西方規恵・牧野晶哲
4	桜田 誠 細江卓朗	井原哲人・森山千賀子
全体		奈良勝行

\*西ネット創立以来第4ブロックの世話人をお願いしていました渡邊穂積さんが、1月に亡くなられました。謹んでご冥福をお祈りします。西ネットの世話人を募集しています。瀧口まで連絡してください。(takiguchi-masaru@iaa.itkeeper.ne.jp)

**お願い:** この広報紙『小平西のきずな』の編集方針は、「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加団体(者)の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当までお申し出下さい。

**投稿募集:** このニューズレターは皆さんと一緒に作るものです。活動の報告やイベントの企画などについての原稿をお寄せください(奈良勝行)。

メール: [ever.onward.nara@xd5.so-net.ne.jp](mailto:ever.onward.nara@xd5.so-net.ne.jp)

**編集後記:** 「小平西のきずな」も今回で51号を迎えます。51号では学生たちの様々な活動を取り上げてみました。西ネットのスタートから12年が経過していますが、今後も人と人をつなげることを柱に取り組みを続けたいと思います。(瀧口)。